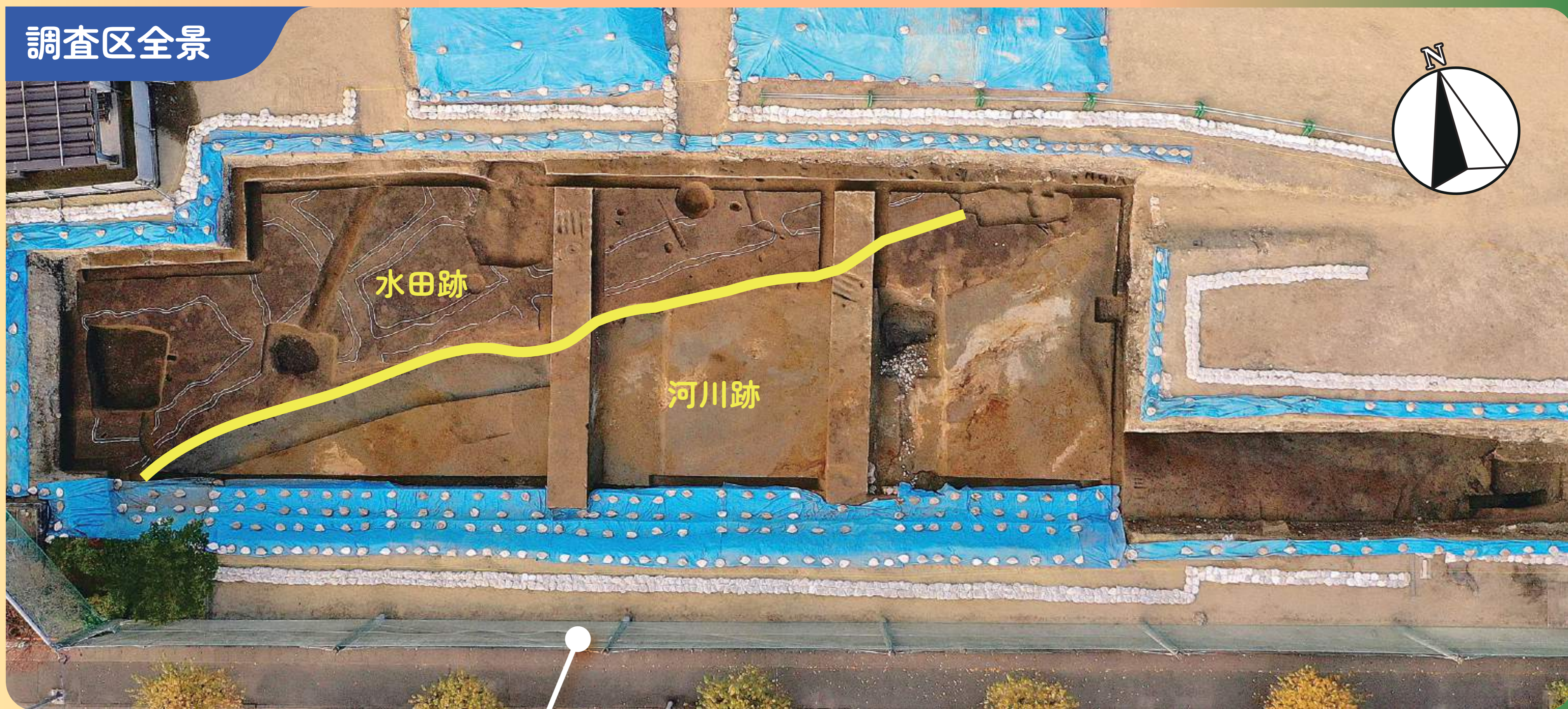


とみざわ 富沢遺跡

調査場所 太白区富沢
調査期間 R4 6/1~R5 1/19
調査面積 780㎡

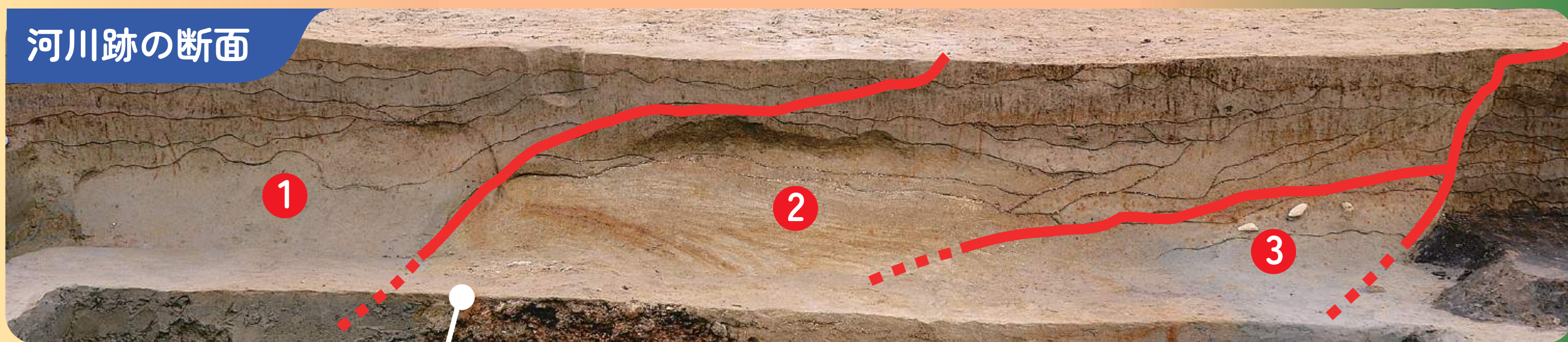
調査区全景



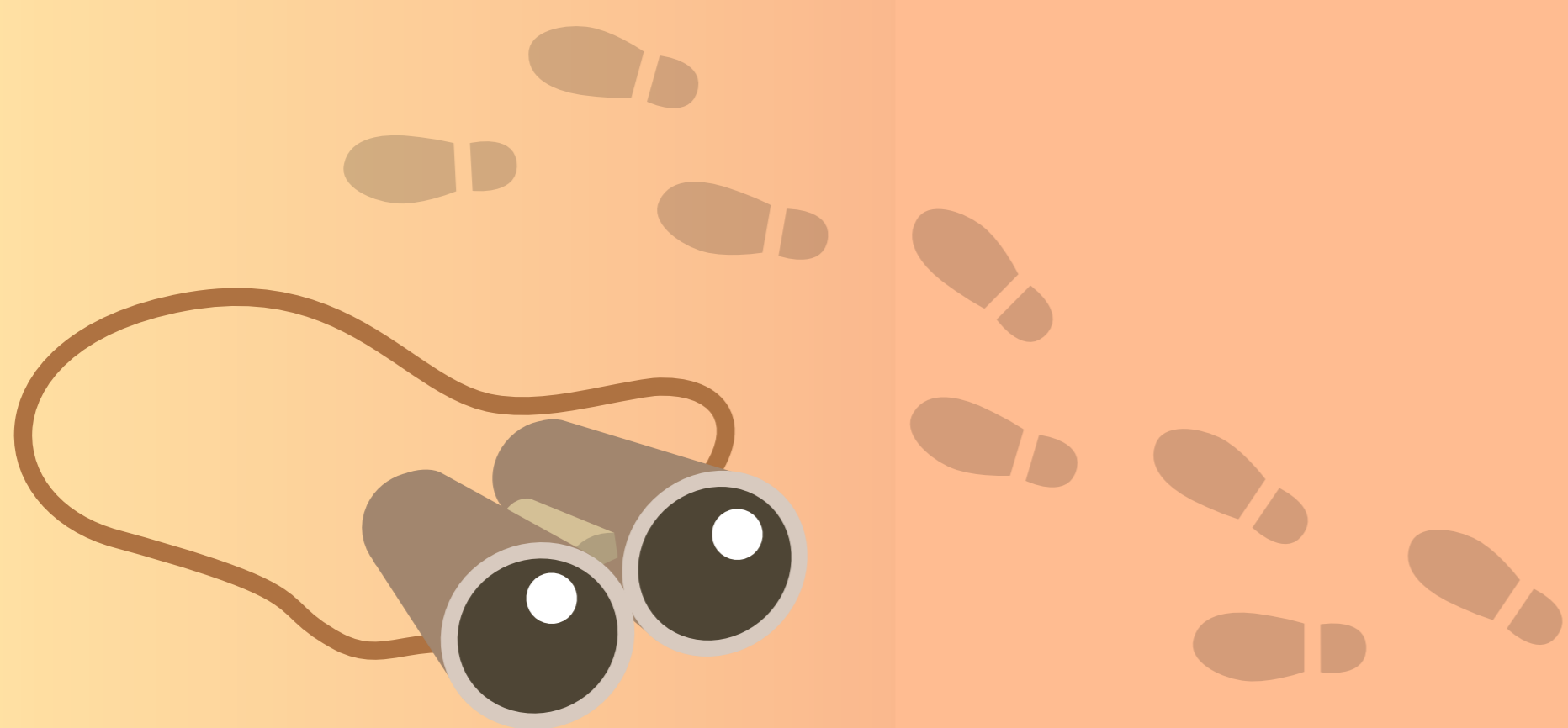
今回の発掘調査では平安時代の河川跡と、弥生時代と古墳時代の2時期の水田跡が見つかりました。



河川跡の断面



断面の観察から河川跡は3時期あったと考えられます。(①←②←③)



どうのくち 洞ノ口遺跡

調査場所 宮城野区岩切
調査期間 R5 5/16～5/18
調査面積 12㎡

ほりあと くいあと
堀跡と杭跡



木杭のかたち



今回の調査では、堀跡が1条検出されました(赤い線の箇所)。また、堀跡のそばからは、杭跡が複数見つっています(黄色で囲まれた箇所)。

出土した木杭をよく見ると、先端が平坦になっています。調整されている痕跡がみられることから、意図的に先端を平坦にしたものと思われます。



南小泉遺跡

調査場所 若林区南小泉
調査期間 R5 7/6~7/18
調査面積 12m²

調査区全景



調査区の断面



- ①元々の地面(地層)
- ②住居内の周囲を囲む溝
- ③住居の床面

竪穴住居2軒が検出されました。
青色で囲んだ古い住居の後に、緑色
で囲んだ新しい住居が建てられました。



なかざいけみなみ
中在家南遺跡

調査場所 若林区荒井
調査期間 R5 10/2~12/2
調査面積 144㎡

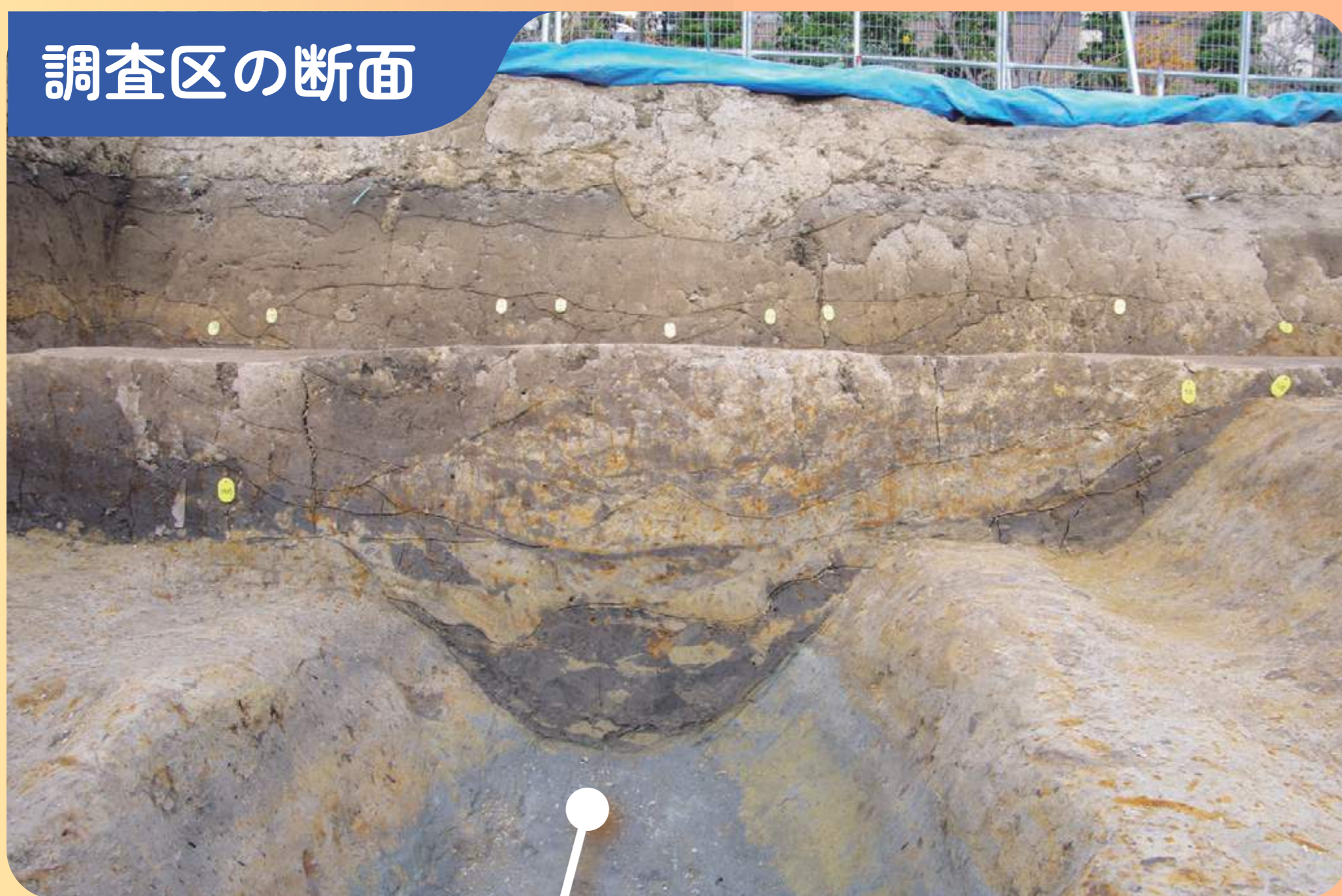
調査区全景



青い線が古代から中世にかけての溝跡で、赤い線が近世の溝跡です。
青い線の溝跡を壊す形で赤い線の溝跡ができたと考えられます。



調査区の断面



今回発見された古代から中世の溝跡
の断面写真です。深さは約1.4mで、長さは
11mでした。



新指定・登録文化財

陸奥国分寺準胝観音堂 じゅんてい



墓股

横田家住宅板倉



かえるまた
墓股などの装飾が古式で、軒の出や反りのバランスが良い建物です。建立のきっかけとなった延宝9(1681)年の石碑が、床板や須弥壇しゅみだんを貫通して内部に収められています。

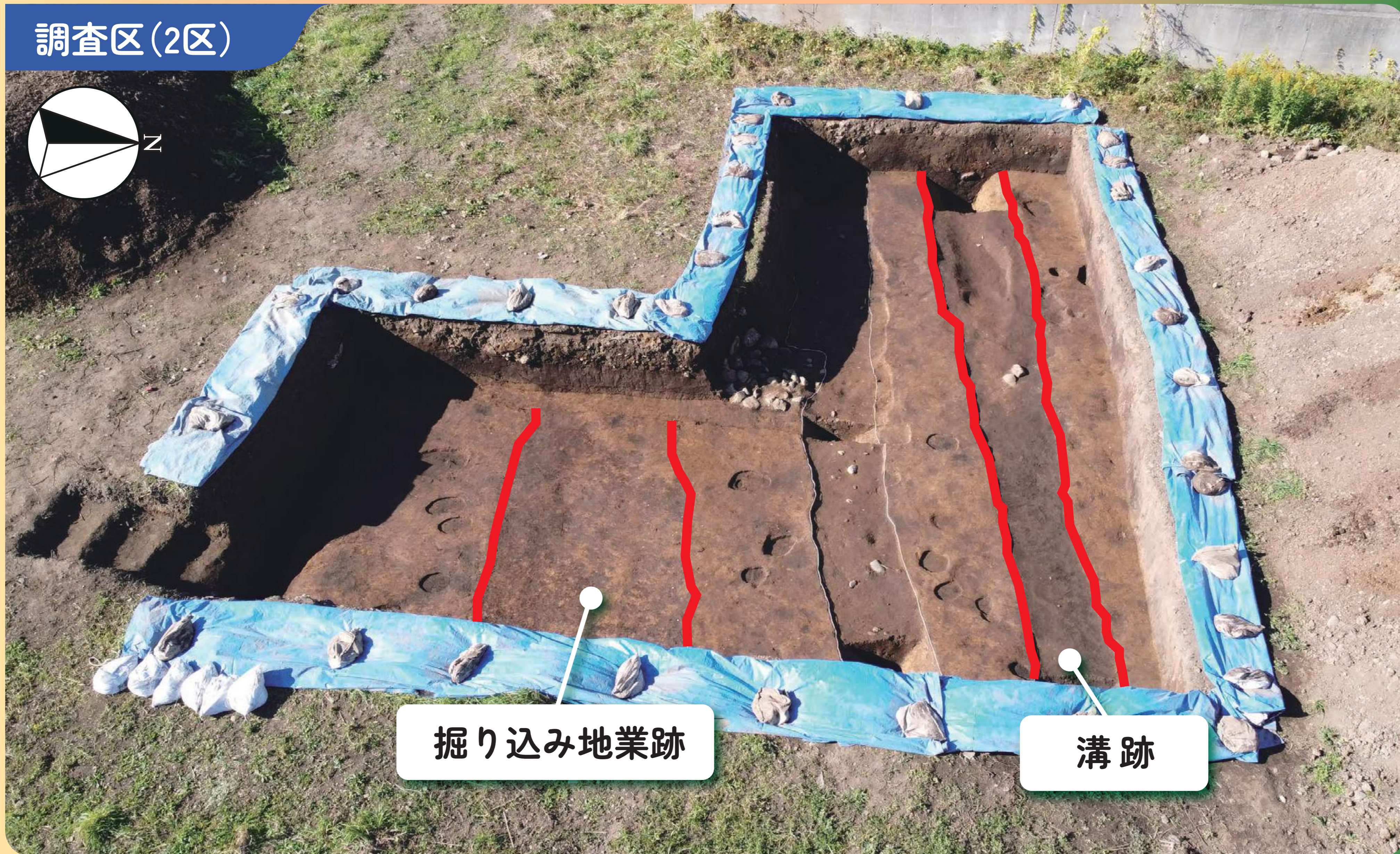
がわばしら
側柱の間に横板を落とし込んで外壁とする、地域特有の板蔵です。塩竈湾から物資を仙台城下へ運ぶために置かれた、仙台藩の御蔵おくらの建物を移築したと伝えられています。



むつこくぶんじ 陸奥国分寺跡

調査場所 若林区木ノ下
調査期間 R5 9/21~12/5
調査面積 169㎡

調査区(2区)



掘り込み地業跡

溝跡

調査区全景



2区

今まで不明だったお寺の北辺を確認するため、4つの調査区を設けました。
2区で、築地塀ついでい(土を突き固めて作った土塀)の基礎部分とみられる掘り込み地業跡と溝跡が確認され、お寺の北辺を知る手がかりを得ることができました。

掘り込み地業跡(拡大)



はんちく
版築状に埋められている様子が分かります。

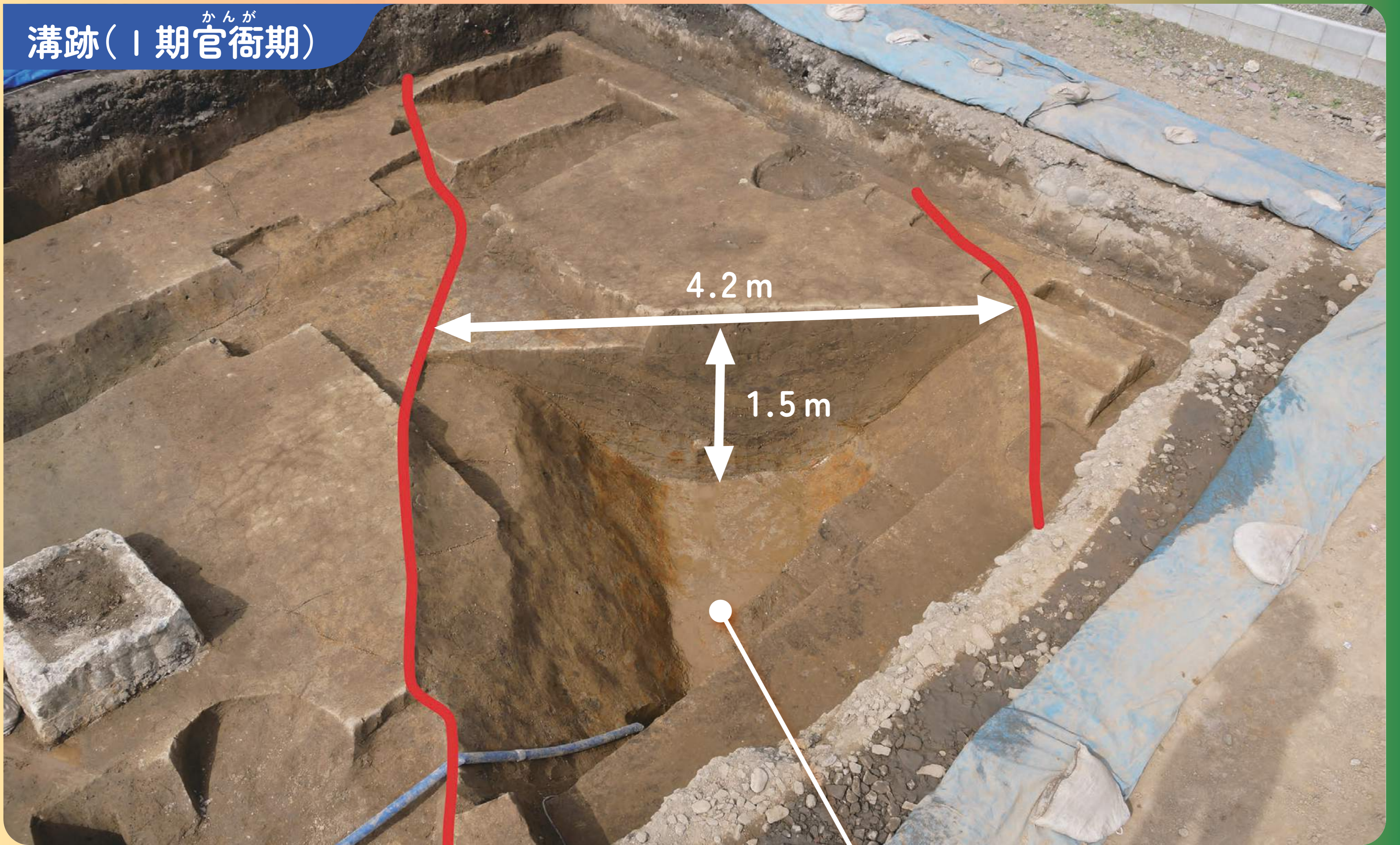


こおりやま

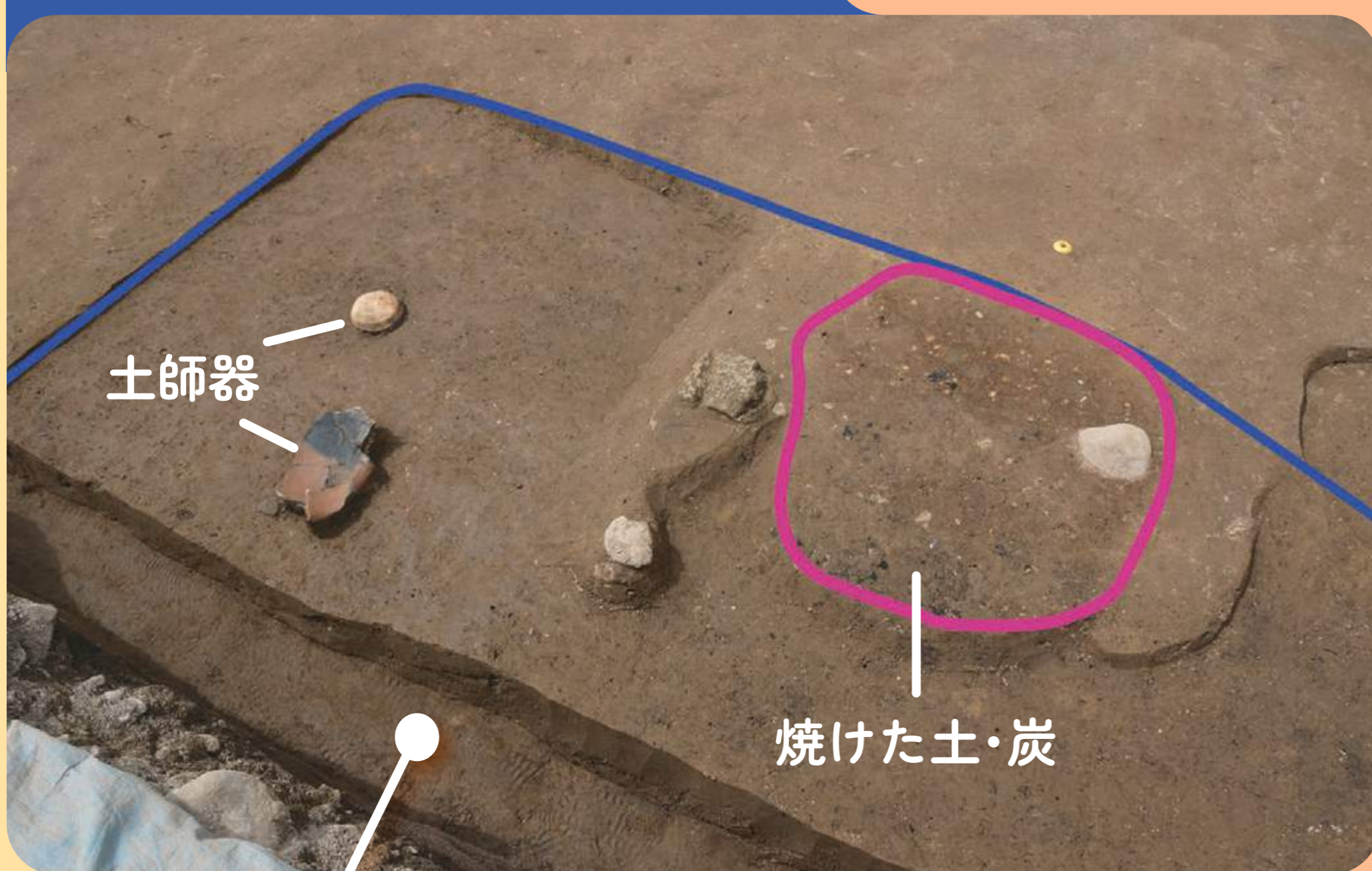
郡山遺跡

調査場所 太白区郡山
調査期間 R5 5/9～6/15
調査面積 97㎡

溝跡(Ⅰ期官衙期)



竪穴住居跡(Ⅱ期官衙期)



赤線の範囲は当時の溝跡です。その幅はなんと4.2m！車2台がすっぽり入る大きさです。深さは1.5mにもなります。役所があった時代に区画や防御のための施設として利用されていたと考えられます。

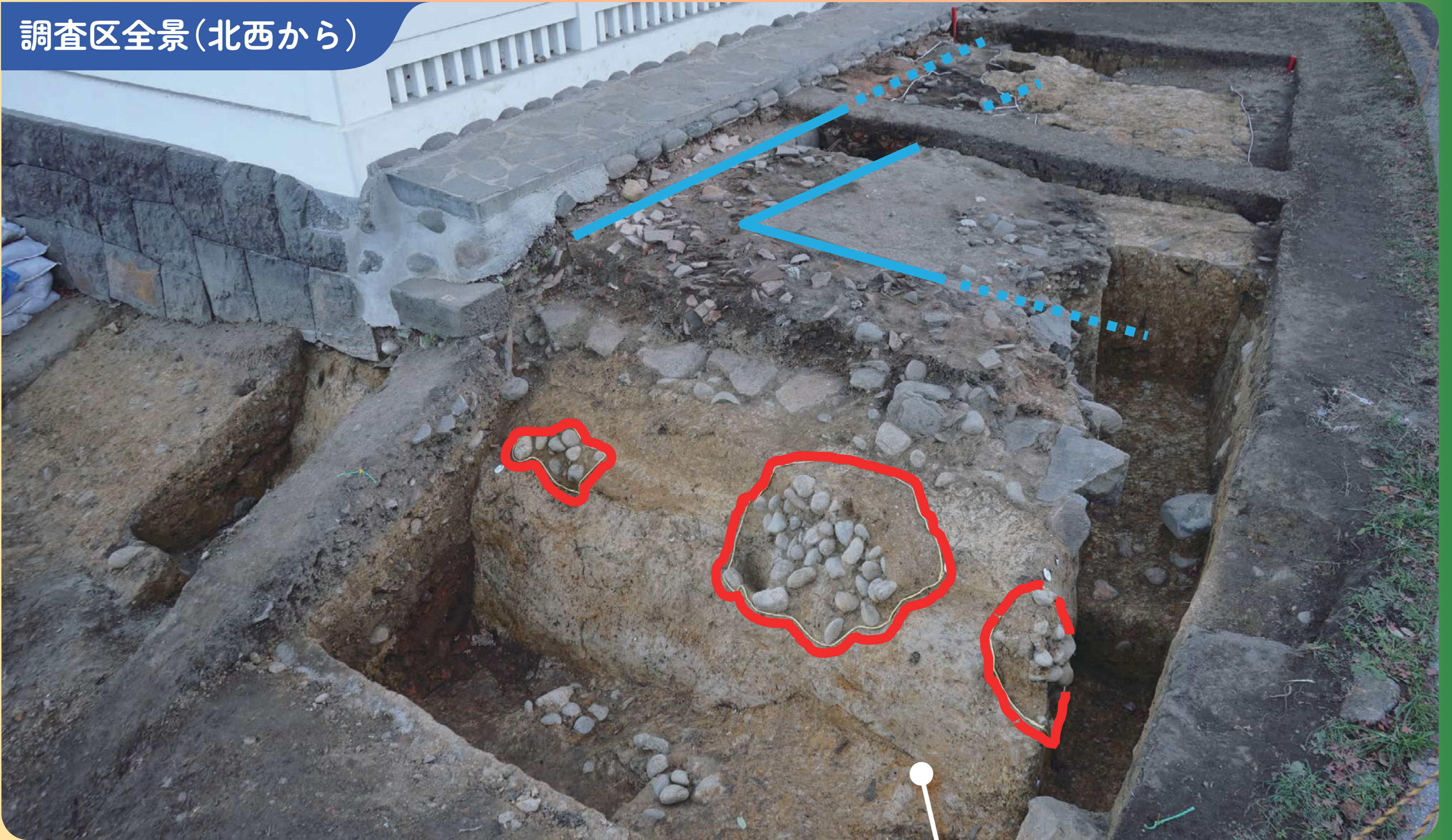
竪穴住居跡が1軒発見されました(青線の範囲)。赤線の範囲には焼けた土や炭がみられ、火を焚いた場所であったことがわかります。遺物は土師器、須恵器、鉄滓(鉄を精錬する際に出る不純物)などが数多く出土しました。



せんだいじょう
仙台城跡

調査場所 青葉区川内
調査期間 R5 9/1~12/18
調査面積 61㎡

調査区全景(北西から)

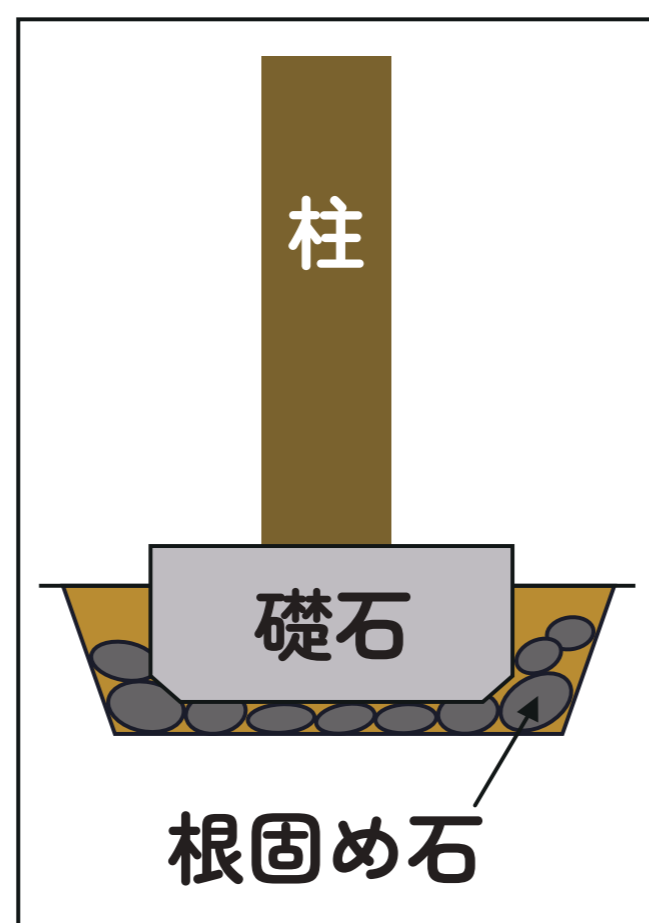


礎石跡の断面



おおてもん そせきあと
大手門の礎石跡(赤枠)と、焼失前
の大手門と大手門脇櫓わきやぐらの周囲を巡っ
ていたと考えられる石組側溝(青線)
が検出されました。礎石跡は東西に
並び、石組側溝は南北方向から東西
方向に曲がる様子が確認されました。

建物の重さを支える
礎石が沈まないように
礎石の周囲に敷き詰め
られる、根固め石のま
とまりが3箇所検出
されました。



300 × 1800mm

第79回 文化財展

最新の調査報告

-2024-

2024
6/4 TUE → 7/7 SUN